都合により、事業の中止や内容が変更される場合があります。

旅行企画担当者様

公益社団法人京都市観光協会

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。今年度で５８回目を迎える京都市・京都市観光協会主催の「京の冬の旅」キャンペーンの「非公開文化財特別公開」概要についてお知らせいたします。
３月頃から一部先行して情報をお出ししておりましたが、公開箇所数が増え「未定」「調整中」であった部分が確定いたしました。本資料が現時点の最新情報です。
ご送客賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

下記情報は２０２３年８月２４日現在の情報です。

****

2023年度　第５８回「京の冬の旅」非公開文化財特別公開　～秘められた京の美をたずねて～

国宝・重要文化財など、多くの歴史的文化財が残る京都でも、通常公開されているのはその一部であるといわれています。
普段は見学できない貴重な文化財を特別公開する第５８回「京の冬の旅」非公開文化財特別公開のテーマは「紫式部と源氏物語」と「辰年のご利益 京の龍めぐり」。
２０２４年の大河ドラマ「光る君へ」の主人公・紫式部と、１０００年にわたって読み継がれてきた王朝文学の金字塔『源氏物語』にちなんで、物語ゆかりの地にスポットをあてます。また「辰年」にちなんで、新年早々縁起の良い瑞獣「龍」に会える寺院を中心に、貴重な文化財の数々を期間限定で特別公開します。
「京の冬の旅」初公開の文化財を含む１５ヶ所での特別公開です。

■公開期間　**２０２４年1月６日（土）～３月１８日（月）　７３日間**
＊泉涌寺 舎利殿／１月８日（月祝）は拝観休止。
＊泉涌寺 雲龍院／１月８日（月祝）は拝観休止。
＊廬山寺／２月１日（木）～９（金）、３月３日（日）は拝観休止。
＊相国寺 法堂・方丈／１月１２日（金）～３月１２日（火）の公開。１月１５日（月）、２月１５日（木）は１２：００～の公開。
＊仁和寺 金堂（裏堂）／２月２日（金）・３日（土）・１４日（水）・１５日（木）・２９日（木）、３月１日（金）は拝観休止。
＊渉成園（枳殻邸）園林堂／３月１日（金）～３日（日）は拝観休止。
＊西本願寺 飛雲閣（外観）／１月２０日（土）～３月１０日（日）の公開。
＊醍醐寺 霊宝館／１月２７日（土）～３月３日（日）の公開。
＊僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院・飛雲閣（外観）／１月２０日（土）～３月３日（日）の公開　※但し1/22・23・29～31、2/2・15・16・22・23は休止
＊僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿／１月６日（土）～３月１８日（月）の期間中の毎週金曜・土曜の公開。※但し3/16は休止
＊そのほか法要等、都合により拝観できない日が生じる場合がございますので、事前に京都市観光協会へご確認下さい。

■公開時間　**１０：００～１６：３０**（１６：００受付終了）
＊相国寺 慈雲院／１０：００～１６：００（１５：３０受付終了）
＊仁和寺 金堂（裏堂）／１・２月　１０：００～１６：００（１５：３０受付終了）、３月　１０：００～１６：３０（１６：００受付終了）
＊渉成園（枳殻邸）園林堂／１・２月　９：１５～１５：３０（１５：００受付終了）、３月　９：１５～１６：３０（１６：００受付終了）
＊東寺 五重塔／８：３０～１７：００（１６：３０受付終了）
＊醍醐寺 霊宝館／１０：００～１６：００（１５：３０受付終了）
＊僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院・飛雲閣（外観）／設定日の１０：１５～と１５：００～（１日２回）各所要約７５分（定員５０名程度／回）※但し15：00～の部は1/20・27、2/10・17・24、3/2のみ実施【インターネットからの完全予約制】
＊僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿／設定日の９：３０～と１２：３０～（１日２回）各所要約６０分（定員４０名程度／回）※但し9：30～の部は1/12・27は休止。【インターネットからの完全予約制】

■料　　金　１ヶ所　**大人（中学生以上）８００円／小学生４００円**（１５名以上の団体は１割引）
＊泉涌寺 舎利殿：大人（中学生以上）９００円／小学生５００円（通常公開部分を含む）で、１５名以上の団体は１割引
＊仁和寺 金堂（裏堂）：大人（大学生以上）１，０００円／高校生以下 無料（１５名以上の団体は大人のみ１割引）
＊渉成園（枳殻邸）園林堂（通常公開部分含む）：大人（中学生以上）５００円／小学生２５０円　団体割引なし　※別途、渉成園の入園時に庭園維持寄付金（大人５００円以上・高校生以下２５０円以上）要
＊東寺 五重塔：大人（大学生以上）８００円／高校生７００円／小中学生５００円（通常公開部分を含む）で、３０名以上の団体は１割引
＊醍醐寺 霊宝館：大人（中学生以上）８００円／小学生無料　団体割引なし
＊僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院・飛雲閣（外観）：小学生以上　１名当り３，０００円　団体割引なし
＊僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿：小学生以上　１名当り２，０００円　団体割引なし

■拝観方法　団体については、施設内の混雑を避けるため他団体等との時間調整を要しますので、事前に予約サイトからのご予約をお願いします。※予約は先着順となっております。
予約サイトは２０２３年９月下旬頃公開予定

◇お問い合わせは、公益社団法人京都市観光協会（DMO　KYOTO）　誘致事業課（平日9：00～17：00）　TEL．０７５－２１３－００２０（直通）　FAX．０７５－２１３－１０１１

都合により、事業の中止や内容が変更される場合があります。

洛東エリア

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
泉涌寺 舎利殿（せんにゅうじ しゃりでん）	東山区泉涌寺山内町27	●京都駅から市バス２０８、８８（土休日のみ運行）系統「泉涌寺道」下車、徒歩約１３分 ●ＪＲ奈良線「東福寺」駅下車、徒歩約１８分	泉涌寺Ⓟ（無料／予約不要・先着） ※駐車場から受付まですぐ	約４０分
泉涌寺 雲龍院（せんにゅうじ うんりゅういん）	東山区泉涌寺山内町36	●京都駅から市バス２０８・８８（土休日のみ運行）系統「泉涌寺道」下車、徒歩約１５分 ●ＪＲ奈良線「東福寺」駅下車、徒歩約２０分	泉涌寺Ⓟ（無料／予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約３分	約３５分

洛北・洛中エリア

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
廬山寺（ろざんじ）	上京区北之辺町397	●京都駅から市バス４・１７・２０５系統「府立医大病院前」下車、徒歩約５分	河原町通にて降上乗降 ※乗降場所から受付まで片道約５分	約３５分
相国寺 法堂・方丈（しょうこくじ はっとう ほうじょう）	上京区相国寺門前町701	●京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、①番出口から徒歩約５分	相国寺Ⓟ（無料／先着順　観光協会へ要予約 ※団体予約と同様 WEB からの申込）、又は烏丸通にて降上乗降　※駐車場から受付まで片道約３分	約３５分
相国寺 光源院（しょうこくじ こうげんいん）	上京区相国寺門前町701	●京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、①番出口から徒歩約５分	烏丸通にて降上乗降　※駐車場から受付まで片道約５分	約３０分
相国寺 慈雲院（しょうこくじ じうんいん）	上京区相国寺門前町703	●京都駅から地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅下車、①番出口から徒歩約５分	烏丸通にて降上乗降　※駐車場から受付まで片道約３分	約３０分
大徳寺 法堂・仏殿（だいとくじ はっとう ぶつでん）	北区紫野大徳寺町53	●ＪＲ嵯峨野線「二条」駅から市バス２０６系統「大徳寺前」下車、徒歩約７分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「北大路」駅下車（乗換）、市バス２０４・２０５・２０６系統「大徳寺前」下車、徒歩約７分	大徳寺Ⓟ（３ｈまで3,000円／予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約４分	約３５分
大徳寺 龍源院（だいとくじ りょうげんいん）	北区紫野大徳寺町82-1	●ＪＲ嵯峨野線「二条」駅から市バス２０６系統「大徳寺前」下車、徒歩約５分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「北大路」駅下車（乗換）、市バス２０４・２０５・２０６系統「大徳寺前」下車、徒歩約５分	大徳寺Ⓟ（３ｈまで3,000円／予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約１分	約３５分

洛西エリア

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
仁和寺 金堂（裏堂）（にんなじ こんどう うらどう）	右京区御室大内33	●京都駅からＪＲ嵯峨野線「太秦」駅で嵐電乗換、「撮影所前」駅から「御室仁和寺」駅下車、徒歩約３分 ●京都駅またはＪＲ嵯峨野線「円町」駅から市バス２６系統またはＪＲバス「御室仁和寺」下車、徒歩すぐ	仁和寺Ⓟ（１回2,000円/予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約５分	約３５分

京都駅付近　エリア

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
渉成園（枳殻邸）園林堂（しょうせいえん きこくてい おんりんどう）	下京区下珠数屋町通間之町東入東玉水町	●京都駅から徒歩約１０分 ●京都駅から地下鉄烏丸線「五条」駅下車、徒歩約７分	烏丸通にて降上乗降 ※乗降場所から通常の拝観受付まで片道約５分（特別公開受付はその奥）	約４５分
西本願寺 飛雲閣（外観）（にしほんがんじ ひうんかく）	下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町	●京都駅から市バス９・２８・７５系統「西本願寺前」下車、徒歩すぐ ●京都駅八条口から京阪バス３１１・３１２系統「西本願寺前」で下車	西本願寺北境内地Ⓟ（無料、予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約１０分	約３０分
東寺 五重塔（とうじ ごじゅうのとう）	南区九条町１番地	●京都駅から徒歩約１５分 ●京都駅から市バス２０５系統「東寺道」下車、徒歩約５分	東寺Ⓟ（2時間まで2,000円／予約不可・先着） ※毎月21日の弘法市が実施されている場合は利用不可	約４０分

山科・醍醐エリア

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
醍醐寺 霊宝館（だいごじ れいほうかん）	伏見区醍醐東大路町22	●ＪＲ「山科」駅から地下鉄東西線「醍醐」駅下車、②番出口より徒歩約10分 ●京都駅八条口（ホテル京阪前）から京阪バス「京都/醍醐寺ライン」で「醍醐寺」下車、徒歩すぐ	醍醐寺Ⓟ（2000円、予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約１分	約４０分

★僧侶がご案内する特別拝観

公開箇所	所在地	ＪＲ最寄駅からの交通アクセス	大型バス駐車場	拝観所要時間
僧侶がご案内する特別拝観 東本願寺 諸殿（ひがしほんがんじ しょでん）	下京区烏丸通七条上ル	●京都駅から徒歩約７分、 ●京都駅から地下鉄烏丸線「五条」駅下車、徒歩約5分	烏丸通にて降上乗降 ※乗降場所から受付まで片道約３分	約６０分
僧侶がご案内する特別拝観 西本願寺 書院・飛雲閣（外観）（にしほんがんじ しょいん ひうんかく）	下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町	●京都駅から市バス９・２８・７５系統「西本願寺前」下車、徒歩すぐ ●京都駅八条口から京阪バス３１１・３１２系統「西本願寺前」で下車	西本願寺北境内地Ⓟ（無料、予約不要・先着） ※駐車場から受付まで片道約１０分	約７５分

非公開文化財特別公開　対象箇所みどころ紹介

泉涌寺 **舎利殿** 「京の冬の旅」６年ぶりの公開	～皇室の菩提所　仏舎利を祀るお堂の龍図～ 東山三十六峰の一つ・月輪山の麓にある泉涌寺は、真言宗泉涌寺派の総本山。鎌倉時代初期、月輪大師俊芿を開山として創建され、寺地の一角から清水が涌き出たことにより名づけられた。皇室の菩提所として多くの天皇の葬儀が行われた寺院で、「御寺」と呼ばれる。木立に包まれた参道の先に、仏殿（重文）や舎利殿などの壮麗な堂宇が甍を連ね、その美しさから「楊貴妃観音」の名で知られる聖観音像を祀る観音堂などがある。 特別公開の舎利殿は、釈迦の歯（仏牙舎利）を安置するお堂で、慶長年間、京都御所の建物を移築したもの。仏舎利は安貞２年（1228）に中国・南宋より伝わったもので、同時期に将来されたという日本最古の韋駄天立像（重文）と、月蓋長者像（重文）が祀られている。「鳴き龍」で知られる狩野山雪筆の天井画「龍図」があることから１２年に一度の辰年ほか特別な機会にのみ公開されてきた。また、土佐光文筆『源氏物語図屏風』などの寺宝も特別展示される。	**相国寺** **法堂・方丈** 「京の冬の旅」６年ぶりの公開	～「鳴き龍」天井画のある日本最古の法堂～ １２の塔頭寺院のほか、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）、真如寺をその山外塔頭にもつ臨済宗相国寺派大本山。明徳３年（1392）、室町幕府三代将軍・足利義満が夢窓疎石を勧請開山として「花の御所」の隣接地に創建した。禅宗寺院を統制管理する「僧録司」が置かれて禅宗行政の中心地として発展し、「京都五山」の第二位に列せられ壮麗な伽藍を誇った名刹である。 特別公開される法堂（重文）は、「畏れることなく法を説くためのお堂」で「無畏堂」とも呼ばれ、慶長１０年（1605）に豊臣秀頼が再建した現存する日本最古の法堂建築。法を説くための中央の須弥壇には、本尊・釈迦如来像を安置し、西の壇には達磨大師、臨済禅師など禅宗の祖師像が祀られている。狩野永徳の子・光信筆の天井画「蟠龍図」は、堂内で手を打つとその反響音が天から降る龍の鳴き声のように聞こえることから、通称「鳴き龍」として知られる。 文化４年（1807）に再建の方丈には、江戸後期の絵師・原在中が描いた「中国普陀落山図」「琴棋書画図」などの障壁画が残る。方丈南側には白砂の平庭、北側には大きな掘り込み状の枯流れで深山幽谷を表した枯山水庭園があり、対照的な２つの庭園もみどころである。
泉涌寺 **雲龍院** 「京の冬の旅」３７年ぶりの公開	～「双龍」の襖絵が彩る皇室ゆかりの寺院～ 泉涌寺の別格本山で、応安５年（1372）、北朝の後光厳天皇によって創建された。その子・後円融天皇が写経の功徳を信奉したため古くから写経の寺として知られる。 背後の山に天皇陵があり皇室と密接な関わりを持つ寺院で、写経道場にもなっている本堂「龍華殿」（重文）には後水尾天皇から寄進された写経道具が置かれ、使用されている。鎌倉時代の写実的な本尊・薬師三尊像を祀る堂内では、水墨画家・竜野夢酔が一年がかりで描き２０１０年に奉納された襖絵「双龍風雷図」を特別公開。風神雷神を伴った双龍が迫力ある筆致で描かれ、中央には般若心経と円相が描かれている。また今回は、江戸期の絵仏師・木村徳応筆の辰年の護り本尊「普賢延命菩薩像」や、龍とともに描かれた十六羅漢の一人「伐闍羅弗多羅尊者像」など、龍にゆかりの寺宝も特別展示される。 「悟り」の円窓と「迷い」の四角の窓をもつ書院や、美しい苔庭、草鞋で走る珍しい姿の「走り大黒犬」像などもみどころである。	**相国寺** **光源院** 「京の冬の旅」初公開	～色彩豊かな十二支の襖絵と昔話の潜む襖絵～ 室町時代に創建された相国寺の塔頭寺院。「永禄の変」で亡くなった室町幕府１３代将軍・足利義輝の菩提寺となり、義輝の院号から「光源院」と名付けられた。 昭和６３年に再建された本堂には、室中の１２面にわたり、日本画家・水田慶泉が半年がかりで描いたという、禅宗寺院には珍しい十二支の襖絵がある。 さらに２０２２年には、上間と下間の二部屋に、画家・加藤晋による「風雷坊」「春」「夏秋冬」と題した襖絵が奉納された。風景の中に、「桃太郎」「笠地蔵」など日本の昔話や「西遊記」などの登場人物を潜ませた色彩豊かな絵で、あらゆるものが仏性をもっているという「草木国土悉皆成仏」の世界を表したものである。 江戸期の建物を明治初期に移築したという行者堂（不動明王堂）には、修験道の祖といわれる神變大菩薩（役行者）像と弘法大師像、不動明王像が、明治期の廃仏毀釈の折に新たに安置された。
廬山寺 「京の冬の旅」３７年ぶりの公開	～『源氏物語』の作者　紫式部の邸宅跡～ 京都御所の東に位置する、天台圓浄宗の本山。平安時代中期に元三大師良源によって創建され、天正年間（1573～1593）に現在地に移転した。昭和４０年、歴史学者・角田文衛氏の考証により、境内全域が紫式部邸宅跡にあたると発表された。この地で紫式部が幼少期を過ごし、後に結婚生活を送り『源氏物語』を執筆した場所とされている。 これにちなんで作られた本堂前庭「源氏庭」は、白砂に州浜形の苔と桔梗を配し『源氏物語』の世界を表現した優美な庭園。仙洞御所の一部を移築した本堂では、江戸期の住吉派の絵師が描いた源氏物語「若紫」や「絵合」の図、六曲一双の「源氏絵屏風」や貝合わせ、かるたなどが拝観できる。また与謝野晶子自筆の和歌集「源氏物語礼賛」も特別展示。 特別公開の元三大師堂は江戸時代に再建されたもので「元三大師像」が安置されている。その御前立として祀られる「鬼大師像（鬼面坐像）」は、口が耳まで裂け両眼を見開き、手に独鈷を持って邪念降伏へと導く元三大師の姿。元三大師は、強い法力で疫病を退散させたと伝えられ、その姿を描いた「角大師」のお札は魔除けの護符となって広く信仰を集めている。また、比叡山焼き討ちが縁で廬山寺に祀られたという明智光秀の念持仏・地蔵菩薩像も公開される。	**相国寺** **慈雲院** 「京の冬の旅」初公開	～伊藤若冲が師と仰いだ大典禅師ゆかりの寺～ 室町時代中期に創建された相国寺の塔頭寺院。開祖・瑞渓周鳳は、室町幕府８代将軍・足利義政に重用されて幕府の外交文書の作成にあたり、日本初の外交史書とされる『善隣国宝記』を編集するなど文筆の才で知られ、門下に多くの文学僧を輩出した。また江戸期に住持を務めた梅荘顕常（大典禅師）も詩文に長じて一世を風靡し、幕府の信任を受け「朝鮮修文職」として多くの外交文書に携わった人物である。とくに奇想の絵師・伊藤若冲との親交は深く、また「煎茶道の祖」と称される黄檗宗の僧・売茶翁（高遊外）とも交友があった。 今回は、本尊・釈迦如来像を安置する本堂内で、慈雲院に伝わる若冲筆の水墨画「売茶翁高遊外像」や、梅荘顕常頂相、若冲に絵を学び梅の絵を得意とした僧・維明周璧筆の屏風などの寺宝が特別展示される（予定）。

都合により、事業の中止や内容が変更される場合があります。

大徳寺 **法堂・仏殿** 仏殿は「京の冬の旅」初公開	～戦国武将ゆかりの洛北の禅刹　探幽の「鳴き龍」～ 洛北・紫野の松並木の美しい境内に、２２の塔頭寺院をもつ臨済宗大徳寺派大本山。正和４年（1315）に大燈国師（宗峰妙超）が開いた庵が始まりで、花園天皇、後醍醐天皇の帰依を受けて勅願所となった。応仁の乱後は一休禅師によって復興され、豊臣秀吉が織田信長の葬儀を営み菩提寺として総見院を建立したのを機に、戦国武将の塔頭建立が相次ぎ隆盛を極めた。また村田珠光、千利休はじめ茶人が参禅し茶の湯文化とも縁が深い。 南北一直線に建ち並ぶ伽藍の中でも、今回特別公開される法堂（重文）は、寛永１３年(1636)、小田原城主・稲葉正勝の遺志により、子の正則が再建したもの。天井の迫力ある「雲龍図」は絵師・狩野探幽が３５歳の時に描いた初期の力作といわれ、敷瓦の上で手を叩くと、龍が鳴いたように音が法堂内に響くことから「鳴き龍」とも呼ばれる。 その南に建つ仏殿（重文）は大徳寺の本堂にあたり、寛文５年（1665）、京の豪商・那波常有の寄進により再建されたお堂で、天井には狩野元信の「天人散華図」が描かれている。	**渉成園** **(枳殻邸)** **園林堂** 「京の冬の旅」５１年ぶりの公開、園林堂は「京の冬の旅」初公開	～光源氏のモデルとなった貴公子ゆかりの庭園と棟方志功の襖絵～ 渉成園（名勝）は、周囲に枳殻の木が植えられていたことから「枳殻邸」の名で知られる、真宗本廟（東本願寺）の飛地境内地（別邸）。江戸時代初期に石川丈山が手がけた池泉回遊式庭園で、歴代門首の隠居所や迎賓施設として使われた。平安時代、この付近に『源氏物語』の主人公・光源氏のモデルの一人といわれる嵯峨天皇の皇子・源融の邸「六条河原院」があったとされ、源融の供養塔と呼ばれる九重の石塔や塩釜の手水鉢が配されている。 印月池を中心に茶室や書院など風雅な建物が点在するなかでも、通常非公開の持仏堂「園林堂」が今回特別に公開される。園林堂内には板画家・棟方志功の肉筆の襖絵４０面余りが収められており、円形に伸びた杉の大木、水面に映る夕暮れの月などが、大胆な構図と繊細な筆致で描かれている。 また明治天皇がご休息された「閲風亭」も特別に拝観できる。
大徳寺 **龍源院** 「京の冬の旅」初公開	～四つの庭を持つ洛北の苔寺　開祖堂の龍図公開～ 文亀２年（1502）、能登（石川県）の領主・畠山義元と豊後（大分県）の大友義長、周防（山口県）の大内氏が創建した大徳寺の塔頭寺院。 創建当初から残る方丈（重文）は、禅宗方丈の典型的な形式を伝える建物で、鎌倉時代の本尊・釈迦如来坐像（重文）を安置する。「室中」の襖には江戸期に描かれた「龍と波」、「礼の間」には室町時代の等春の筆による「列仙の図」が描かれている。 室町時代の相阿弥の作庭と伝わる方丈北の「竜吟庭」は、豊かな苔と一直線に並ぶ石組が印象的な須弥山形式の庭。方丈南に広がる昭和期作庭の「一枝坦」は、大海を表す白砂に楕円形の苔島を配した蓬莱式の枯山水庭園で、苔が効果的に使われ「洛北の苔寺」とも称される。そのほか、方丈東には「日本一小さい石庭」と言われる４坪の「東滴壺」、書院南庭には「波濤底（阿吽の庭）」があり、四つの趣の異なる庭がみどころ。 特別公開される開祖堂は、龍源院の開祖・東渓宗牧を祀る、昭和期に建てられた檜皮葺屋根の唐様建築で、内部天井には南画家・井上石邨が描いた龍の図が残る。 そのほか、不思議な逸話の残る、日本画家・鈴木松年筆の「白蔵主と月にむら雲」の屏風など寺宝も展示される。	**東寺** **五重塔**	～京都の象徴　日本一高い国宝・五重塔～ 真言宗の総本山で、正しくは教王護国寺といい、世界遺産。平安京造営の際に国家鎮護のために創建され、後に弘法大師空海に下賜された。平安時代からおよそ１２００年の間、変わらず同じ場所に位置している。 東寺の象徴でありまた京都の象徴ともいうべき五重塔（国宝）は、高さ約５５ｍで、木造の塔としては日本一の高さを誇る。４度焼失したがその度に古来の工法で再建され、現在の塔は寛永２１年（1644）徳川三代将軍家光の再建によるもの。極彩色の文様で埋め尽くされ、密教の根本仏・大日如来に見立てた心柱を守るように金剛界四仏を安置した荘厳な空間で、特別公開時には初層内部へ入って拝観できる。 また、本尊・薬師三尊像（重文）を祀る金堂（国宝）や、２１体の仏像（うち１６体が国宝、５体が重文）が弘法大師の密教の教えを表現した立体曼荼羅を形成している講堂（重文）もあわせて拝観できる。
仁和寺　金堂 **(裏堂)** 裏堂は「京の冬の旅」初公開	～「五大明王」壁画　５年ぶり２度目の公開～　【僧侶による堂内解説付き！】 真言宗御室派総本山で世界遺産。仁和４年（888）、宇多天皇が造営し、「御室御所」とも呼ばれ格式を誇った名刹である。明治維新まで１０００年にわたり代々皇室から住職を迎えた門跡寺院で、広大な境内には御所から移築された建物も多い。 桃山時代の御所の紫宸殿を移築した金堂（国宝）は、現存最古の紫宸殿の遺構として貴重な建物。極彩色の「浄土図」を描いた荘厳な堂内の須弥壇には、江戸期の仏師・運慶作の阿弥陀三尊像や四天王像、帝釈天像、梵天像や竜灯鬼、天灯鬼などが安置されている。 今回は、その須弥壇の背面（裏堂）壁に描かれた極彩色の「五大明王壁画」が５年ぶりに特別公開される。２０１８年秋まで３７０年以上全く非公開とされてきた壁画で、不動明王を中心に金剛夜叉明王、降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王の５躰の明王の姿が色鮮やかなまま残されている。	**醍醐寺** **霊宝館** 「京の冬の旅」１４年ぶりの公開	～密教美術一挙公開！　水晶の中で輝く阿弥陀如来像～ 貞観16年（874）、弘法大師空海の孫弟子にあたる理源大師聖宝が開いた真言宗醍醐派の総本山で、世界遺産。山上の「上醍醐」と麓の「下醍醐」に点在する国宝６棟、重文１０棟を含む８０棟余りの建造物や、所蔵する彫刻・絵画など密教美術の宝庫である。 中でも今回特別公開される寺宝の一つ「水晶宝龕入り木造阿弥陀如来立像」は2018年に初めて一般公開された、他に類を見ない珍しい仏像である。鎌倉時代前期の仏師・快慶作と目される高さ約5.5㎝の金色の阿弥陀如来像を、蓮のつぼみの形をした透明な水晶の中に納めたもの。水晶で密閉されているため、表面の金箔は約８００年前の制作時のままの状態で、像の姿かたちは水晶を通して見ることを計算して作られているという。 その他、醍醐寺が誇る貴重な文化財を一挙公開。

西本願寺 **飛雲閣（外観）** 「京の冬の旅」 ４４年ぶりの公開	～「京の三名閣」の一つに数えられる非対称建築の美　～ 龍谷山本願寺は、「西本願寺」の通称で親しまれる浄土真宗本願寺派の本山。天正１９年（1591）、豊臣秀吉が現在の寺地を寄進して伽藍を構え、豪壮華麗な桃山文化を代表する国宝・重要文化財の建造物が今も多数残されており、世界遺産に登録されている。 なかでも飛雲閣（国宝）は、金閣寺の「金閣」、銀閣寺の「銀閣」とともに「京の三名閣（三閣）」に数えられる三層の楼閣建築。左右対称である金閣や銀閣に比べ、非対称に造られており、不規則な中にも巧みに調和が保たれているその姿形や、全体的に柱が細く障子が多いために、空に浮かぶ雲のようだということから名づけられた名建築である。 飛雲閣へ舟で出入りできるように造られた庭園「滴翠園」（名勝）は、「滄浪池」を中心に広がる約４９００㎡の庭園で、庭内には田舎家風の外観の茶室「滴花亭」や、四阿「胡蝶亭」などが建つ。 ２０１７年７月から建物や庭園の修復工事が行われ、美しい景観を取り戻したばかりの時期に拝観できる。	僧侶がご案内する特別拝観 **東本願寺** **諸殿**	～重文指定記念！近世京都画壇の宝庫「お東さん」の非公開建築～ 正式には「真宗本廟」、通称「東本願寺」と呼ばれ、京都駅近くに壮大な伽藍を構える真宗大谷派の本山。慶長７年（1602）、第１２代教如上人が徳川家康からこの地の寄進を受けて建立した。その後四度にわたって焼失したが、その後、明治期に再建された堂宇は近代和風建築を代表する歴史的価値のあるもので、近年相次いで文化財指定を受けている。今回は通常非公開の諸殿のなかから、２０２３年６月に重要文化財に指定された大寝殿と白書院を僧侶のご案内で特別拝観できる。 慶応３年（1867）に上棟された大寝殿（重文）は、境内に現存する最古の建物で、公式行事や儀式に使用される諸殿の中心である。床の間や襖絵には、京都画壇を代表する日本画家・竹内栖鳳によって「風竹野雀」「歓喜」「古柳眠鷺」などが描かれている。来賓の接待などで使用される白書院（重文）は、古建築に造詣の深い建築技師・亀岡末吉が創作した花鳥の図様によって装飾された障壁画が見事な書院造である。世界最大級の木造建築である御影堂（重文）、阿弥陀堂（重文）の参拝もあわせてご案内。
		僧侶がご案内する特別拝観 **西本願寺** **書院・** **飛雲閣（外観）**	～国宝・重文尽くし！華麗なる桃山文化の粋～ 世界遺産に登録されている龍谷山本願寺は、「西本願寺」の通称で親しまれる浄土真宗本願寺派の本山。天正１９年（1591）、豊臣秀吉が現在の寺地を寄進して伽藍を構え、桃山文化を代表する国宝・重要文化財の建造物が今も多数残されており、今回はその豪壮華麗な文化財の数々を僧侶のご案内で法話とともに特別に拝観できる。 書院（国宝）は、桃山時代の豪壮華麗な書院造を代表する大建築。狩野派や円山派が手がけた美しい金碧障壁画や重厚な彫刻で飾られている。２０３畳敷きの「対面所」は、欄間に鴻（コウノトリ）の透かし彫りがあることから「鴻の間」とも呼ばれ、その西側には「雀の間」「雁の間」「菊の間」など、意匠を凝らした小部屋が並ぶ。賓客の接待などに使われた「白書院」には、一の間「紫明の間」、二の間、三の間「孔雀の間」の絢爛豪華な三室が一列に続く。そのほか「東狭屋の間」の大井画「八方睨みの猫」、現存最古で唯一の国宝に指定されている北能舞台、南能舞台（重文）などみどころは多い。 「虎渓の庭」（特別名勝）は、御影堂の大屋根を中国の名山・廬山に見立てた借景とし、巨石の枯滝から川の流れが白砂敷きの大海に注ぐ様子を表した桃山文化を代表する枯山水庭園である。 さらに「金閣」「銀閣」とともに「京の三名閣」に数えられる飛雲閣（国宝）の外観と、周囲に広がる庭園「滴翠園」（名勝）も拝観。 また浄土真宗を開いた親鸞聖人の木像（御真影）が安置される御影堂（国宝）と本堂に当たる阿弥陀堂（国宝）も自由参拝できる。